

## ■平成26年度 第1回 大和市街づくり推進会議 会議録■

[会議名称] 平成26年度 第1回 大和市街づくり推進会議

[開催日時] 平成26年5月22日(水) 14時から15時30分

[開催場所] 市役所本庁舎5階 第6会議室

[出席委員] 7名(欠席:3名)

[出席]: 饗庭 伸/宇津木 朋子/須賀 良二/菅 孝能/星野 澄佳/松本 久美  
/吉田 洋子

[欠席]: 相原 聡/仙石 裕明/仲村 邦弘

[事務局] 5名(街づくり計画部長、街づくり推進課長、街づくり推進担当3名)

[担当課] 街づくり計画部 街づくり推進課 tel.046-260-5483

[傍聴者] 0名

[公開の状況] 公開

---

### I. 会議次第

---

1. 開会

2. 議題

(1) 内山の市街地整備推進協議会の地区街づくり協議会の認定について

(2) 平成26年度街づくり啓発事業について

3. 閉会

### II. 内容

---

1. 開会

2. 議題

(1) 内山の市街地整備推進協議会の地区街づくり協議会の認定について

・資料1-1~1-4をもとに、事務局より説明

質疑応答(○…委員、▼…市)

---

○質疑があればうかがっていく。本会議では、地区街づくり協議会への認定が妥当であるか否かの判断をすることになる。

○平成25年度実施の意向調査での権利者数667を分母とし、平成23年12月実施のアンケートでの賛同者数372を分子としているが、このような数字のとり方の妥当性についてうかがいたい。

▼当初、この団体は区画整理を目指していた団体なので、本来であれば再度賛同者を募るべきであ

る。しかし、市街化編入に向けた活動を継続しているもので、今回は新しい組織を作るのではなく、名称と活動目的の変更であると捉え、総会でも承認を得ている。そこで、分子は元となる組織を作った時点での数字を採用し、分母については、平成25年の意向調査で使用した資産税台帳から正確な数字を採用している。

○了解した。意向調査の結果を見ても、1/5を超えているので問題はないと言える。

○意向調査の権利者数である667人は、地権者ということか。地権者ではなく、借地権者の扱いはどうなっているのか。

▼例えば、区画整理事業では、土地建物所有者や共有者等の関係権利者も含めて考えていくため、膨大な数になる。しかし、今回は組織の認定の段階なので、示している数字は世帯ベースのものとして捉えていただきたい。また、借家人については、この数字の分母にも分子にも入っていない。

○借家人にこれらの情報は届いているのか。

▼把握が困難であることから送っていない。

○「都市計画道路 南大和相模原線」は、ゾーン区分図を見ると二つのゾーンに跨っているが、今後この道路の扱いはどうなるのか。

▼近隣住民の方にとっては、この道路が通じていないために、近隣地域が車の抜け道になりやすく、悩みの種であることは承知している。

▼この道路は都市計画で定められた都市計画道路であるので、計画変更はあり得ず、この位置に整備するしかない。区画整理事業であれば、事業と一体で整備することができるが、そうでないとすると、市全体の道路整備事業に組み込まれるため、整備は気長に進めていくしかない。

○新たに整備が必要な部分は、市が買収しなければ進まないということか。

▼そのとおりである。

○協議会の今後の活動について、平成26年度に「地区計画の基本方針」を作ることになっているが、部分的に先に市が市街化区域に編入しておきたいとなると、平成27年度で地区計画について検討してからということになるのか。それは、平成27年度の「次期市街化区域編入地区の研究」に含まれるのか。

▼組織の活動については、市が先行して市街化区域に編入を目指している地区を含めていない。しかし、意向調査等、協力していただける事項については、協働で進めていく。

○それぞれは別の流れということか。

▼そうである。

○資料のゾーン区分図とは、どのように関わるのか。

▼現在、資料には反映されていないが、市街化編入については神奈川県が基本的基準を定めており、島状にではなく縁辺部から進めていくこと、都市的土地利用が図られていること、地区計画等で計画的な整備を進めることがその内容となる。

▼これらの点から、市街化編入についての基準に該当し、意向調査による賛同者の割合が高い地区を先行させる計画である。モデルケースとして先行する地区の進捗を見てもらい、残りの地区の人がどう考えるかということになるだろう。そのような意味で、全域の市街化編入は2、3年のスパンではなく、かなり長期間になると考えられる。したがって高齢化した現在の世代ではなく、次の世代の人々がどのように考えていくかが問題となる。

▼組織の活動で「地区計画」と記載しているが、どちらかという「地区街づくり計画」とした方が適当かもしれない。行政としては、地区街づくり計画について当面3年間の支援と、先行して編入する地区の地区計画の制定を行っていくことになる。

○市街化編入された地区から公共下水道の整備が行われるということだが、下水道計画の将来像が明らかでないにもかかわらず、一方で部分的に整備ができるのか。

▼市街化調整区域の下水道については、現時点では計画に入っていない。市街化区域編入されたところから順次公共下水道計画に組み込み、整備を行っていくことになる。

○資料にある審査結果の判断は記載の通りとなるので、再度ご確認いただき、妥当であるかの判断をしていただきたい。

○それでは、概ね資料に示された審査結果で差支えないだろう。内山の市街地整備推進協議会の地区街づくり協議会認定について、認定の判断が適当であるということによいか。

一同賛同

○では、議題1については、認定されたとする。

## (2) 平成26年度街づくり啓発事業について

- ・資料2をもとに事務局より説明
- 質疑応答（○…委員、▼…市）

---

▼まず、経過についてご説明させていただく。昨年度の授賞式も含め、街づくり賞等、その他多くの啓発事業を開催してきたが、街づくりに理解のある方や、グループワークの技術を持った方が増えており、一定の成果が上がってきたものと考えられる。一方で、地域での街づくり活動まで発展していない等、課題も多い。そこで、毎年同じものを開催するのではなく、それ以外の方法について検討し、提案させていただきたい。

○街づくり賞以外のイベントを開催することについて、委員の皆さんのご意見からその感触を掴み、その代替案としてどのような啓発事業が考えられるか議論するということによいか。

▼そうである。

○以上の点を踏まえて、今回の会議ではいろいろな意見を出し合い、その内容を事務局にまとめていただき、次回の会議で議論を深める予定である。

○前回の街づくり賞表彰式の感想も含めて何か意見はあるか。

○前回の街づくり賞表彰式では、その後のイベントにおいて、建設的意見が活発に展開されており、様々な組織との交流が行われ、発展的なものとなったと思う。

○課題としては、そのようなイベントになかなか来られない人いかに参加してもらえるようになるかという点であろう。以前、緑野地区で開催された街づくり学校には、比較的若い年代の参加者がいて、良い意見も出されていた。彼らの意見をどのように吸い上げるかということを考えなければいけない。あの場に来られない人でも、「見学なら」という人もいるだろう。多くの方に関心を持ってもらうための情報提供を行い、裾野を広げることが大切である。

- 近年の受賞者で、現在も同様に活動している受賞者の方に声をかけて、テーマ別や地域別に市民をグループ分けして意見交換を行うという、前回の表彰式後のイベントの発展型のようなものを行ってはどうか。専門家の方等にフォローしていただき、議論を深められるとよい。
- 過去の街づくり学校参加者や、街づくりサポーター等に声かけを行い、イベントへの参加を呼びかければ良い。街づくり賞としては開催しないが、過去の賞の再確認を行うというのはどうか。
- 街づくり賞の意義には、街づくりに関心のない人に、街づくりへ目を向けてもらうという側面もある。そうだとすれば、ここ数年の街づくり賞の応募状況を見ると、あまり効果が上がっていないと言える。昨年の表彰式のような、勉強や意見交換の場に意味があるというのであれば、今までの街づくり賞の応募や選定のプロセスは必ずしも必要ではない。
- 市内で街づくりの活動を頑張っている方々を定期的に集めて、議論や意見交換をする場を提供してはどうか。
- 街づくり賞は、点で終わっているというところが残念である。自治会等のエリア別で意見を交換したりするなど、それぞれの活動が繋がって一緒に活動する等できるとよい。一過性のイベントで終わるのではなく、次のステップへ進めるようにエリアを選んで情報交換する等工夫が必要なのではないか。
- 地域に出張して街づくり学校を行うというのも面白い。
- 現在はそのようなスタイルへ向かっているのではないか。
- ▼街づくり学校も、ただ「受講してよかった」ではなく、次の活動へつながるようなものを目指している。街づくり賞についてだけではなく、啓発事業全体についてのご意見をお伺いしたい。
- 若い人の参加がもっと増えると良い。例えばコミュニティデザインやワールドカフェ等、若い人を中心にイベントへの呼びかけをしてはどうか。
- 現時点では既に、推進会議や市が企画するものではなく、例えば街づくり賞表彰式に出席したような方が中心となって企画するという段階に来ているのではないか。課題の発見や勉強会の開催等、企画そのものを自分達で作る、自分達で仲間を呼んでくるという段階に入っているのではないか。
- しかし、それは簡単なことではないだろう。現在は、行政である程度の導入を行い、あともう一押しすると理想的な形になるような段階である。その地域の住民や知恵を持った人が中心となって、未発達なところを導いていくというような交流の仕方もあるのではないか。
- 全て市民に任せるというのではなく、あくまでも主役は市民であるという考え方である。市民はお客さんではないという意識を強くすることである。
- ▼この会議の後には街づくりサポーターにもご意見をうかがう予定である。あまり行政側が決めないというスタイルも考えられる。過去のフォーラムでは、一般の市民が実行委員会となって企画・運営を行っていたが、毎年となるとなかなか難しく、中止にしてしまった経緯もある。
- 過去の街づくりフォーラムの反響は良かった。
- 一般市民への広報はどのように行うのか。私が景観に関する取組みで関わっている逗子市では、市からのニュースを市民グループが作成している。1年半の間に26本位作成しており、ホームページで見られることもできる。
- あまり市民の活動が見える状況になっていないのではないか。例えば、年次報告書に、表彰式の後にイベントを開催したという記録や内容を記載してはどうか。今のままでは、会場に来た人しか

分からない状況である。本来であれば、年次報告書も行政ではなく市民が自分の思い入れも含めてまとめるものなのではないか。

▼つきみ野6丁目地区や内山地区等は、市民の方がホームページや議事録等を作成し、公開している。今までも、呼びかけるきっかけがなかったり、実践していなかったこともあったのかもしれない。

○それはもったいない。例えば、イベントに参加した方の感想等を記載すればよいのでは。

○行政が地域に出てイベントを開催することには、それなりの思惑があったものと思う。そのような地域を応援する街づくりフォーラムというものはどうか。その地域の動きが増えてくるような、「これからの街」に焦点を置くのがよいのではないか。

○以前、世田谷で開催されたイベントに出席したことがあるが、街づくりの手法や、街づくり活動のための人とのつながり方について、実際の学びに結びつくようなものが良いと思う。

○大和市外の方が来られるようなものが良い。

○以前、横浜のさくらワークスに行った方の話を伺ったことがある。大和の規模だけでは無理かもしれないが、厚木市や座間市等の広域で若い方を集めて、さくらWORKSの県央版のようなものを行ってはどうかという話をしていた。

○場所ではなく、テーマが面白ければ、外からも人が来ると思う。内輪向けよりも、外を意識した方がよい。

○広域であれば、ニュースとしても取り上げられる。

○座間市や相模原市等、小学校の先生が通勤で通われている範囲でならば、可能なのではないか。

○様々なご意見が出たが、他にはどうか。

▼地域で何かテーマを持って取り組むということも考えたい。例えば、いきなり地区計画を作るとするのは難しい。市民の方にとって興味があることは、やはり安全や防災等であろう。例えば景観等、地域全体で取り組めることも考えられる。ただ、今年まずできることと、予算との兼ね合いも含めて今後検討していくことが妥当なものもある。今年は今年でできることを行いたい。

▼現在、街づくり計画部内で、「中央林間地区街づくりビジョン」というものに取り組んでいる。今まで中央林間地区は、民間の企業により街づくりが行われてきており、市が直接的には関わってこなかった。中央林間地区において、全市的には難しいが、本日の議論をうかがって、地域を絞って、市内だけではなく近隣からも人を集めて取り組んでいくことも考えられる。中央林間地区は、市内で唯一高齢化率も10%代程度である。この事業と、本日議論していただいた啓発事業とを絡めて検討していきたい。

○本日の議論を踏まえ、次回の会議でもう少し具体的な案を事務局からお示しただけということで、今回の議論はここまでとする。

◎次回の推進会議は、7月下旬から8月上旬を目途に日程調整をすることになった。

### 3. 閉会

以上